

文・写真 松澤美穂

地方 民鉄 紀行

岡山電気軌道株式会社



すつきりと晴れ渡った青空の下、黒い下見板張りの勇壮な外観を浮き上がらせる鳥城・岡山城。そのお膝元を走る4.7kmの小さな路線には、色とりどりの電車が走る。

終

点までの距離、「東山線」3.0km、「清輝橋線」2.1km。路線の重複部分を差し引くと総延長は4.7km。岡山電気軌道は日本一短い路面電車だ。

出発地点はJR岡山駅の東口。地下街からもつながらる起点の「岡山駅前」電停は、真つすぐ延びた片側4車線の「桃太郎大通り」の中央にある。

電車は人気の広告媒体

乗り込んだ清輝橋線の電車は、白地に桃太郎や鬼のイラストが配置された、きび団子で有名な和菓子屋さんの広告電車。車内に響く降車ボタンのチーンというなんとも古風な音と、車窓に連なるビルや交通量の多い通りの対照的な雰囲気を観察するうちに、あつという間に終点「清輝橋」に到着。ここまで約12分。次は東山線に乗るために、「柳川」電停まで戻って乗り換える。今度の電車はオレンジベースに猫(?)のイラスト。こちらの路線も証券会社や銀行などの大きなビルが立ち並び大通りを走り抜け、まもなく終点「東山」に到着。なるほど確かに、これは短い。

「東山」から電停を二つ、二つ、歩いて戻ると、橋の上を走る水色の広告電車の遠く後ろに岡山城の姿が見える。やっぱりここは岡山城に向かおうと電車を待つと、やって来た電車は白のベースに子会社・和歌山電鐵で人気の猫駅長が踊る「たま電車」。三毛猫カラーに埋め尽くされた車内から外を見れば、すれ違った電車はピンク一色だ。

岡山電気軌道には、いわゆる「基本色」の電車は走っていない。1日に運行している電車は、およそ17。そのうち、最新型の超低床路面電車MOMOと「たま電車」を除けば、ほかは全て広告電車だ。もちろん鉄道ファンに人気の3000系、「東武日光軌道線復元号」や「KURO」もあるのだが、古い車体は冷房設備が付けられないため、現在は夏季休業中とか。

白、青、黄色、オレンジ、ピンク……バラエティーに富んだ電車が市内を走る。政令指定都市岡山市の、行政機関と繁華街がぎゅつと詰まった小さなエリアを走る電車は、人気の広告媒体らしい。

観光名所は誘惑が一杯

「城下」電停で電車を降りると、岡山城までは徒歩10分。どつしりとした石垣を眺めつつ、門をくぐり階段を上っていくと、黒い下見板張りの外観から「鳥城」と呼ばれる岡山城の天守閣が現れる。

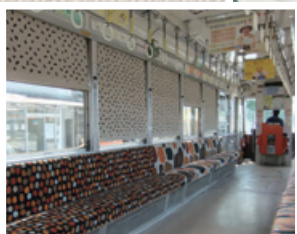
天守閣の上からは市内が見渡せる。電車の背後にお城を見つけた、先ほどの橋の辺りに目をやるが、強い日差しに目がくらみ、電車の姿が見えるような、見えないような。まぶしさに目を瞬きながら、今度は月見橋を渡って、後菜園へ。

橋の上から、もう一度、岡山城を見上げる。「岡山城の天守閣はね、不等辺五角形の天守台の上にあつてね……」。橋の上で写真を撮っていたおじさんがお城の魅力を嬉しそうに解

岡山電気軌道

【おかやまでんききどう】

岡山駅前電停を起点に、岡山市の中心部を走る「東山線」と「清輝橋線」の2路線を運行。明治43(1910)年の創業以来「市内電車」の愛称で親しまれている。総延長4.7kmの日本一短い路面電車として有名。



「たま電車」の車内は猫模様

「城下」でのすれ違い。手前が「たま電車」



月見橋から見た岡山城



二つの 3000 系は、向かい合って夏季休業中



電車の後に岡山城が見える

説してくれる。岡山城から後楽園につながるこの橋は絶好の撮影ポイントなのだとか。

橋を渡りきったところが、後楽園の南門。門から続く木立を抜けると、目に飛び込んでくるのは一面の緑。真っ青な夏空と青々とした緑の芝生、中央に配された大きな池がキラキラと日の光を反射して、まるで絵画のよう。

しかし、遮るものがない広々とした空間には日陰がない。強い直射日光から逃れるように、入園客は芝生の周囲を取り巻く木立の中へ、さらには適所に設けられた茶店の中へ。茶店に入れば、お土産物の誘惑が一杯。後楽園でしか手に入らないという物もあり、つつい手が出る、財布がゆるむ。

南門からぐるりと回って外へ出る。手にはずっしりお土産袋。

金曜日はピアガー電

お土産を抱えて「岡山駅前」電停に戻ると、ようやく和らいできた日差しの中を、2両編成の車体を滑らかに動かしながらMOMOが入ってくる。ガタンガタンと音を鳴らして走る、どこか懐かしい趣のある他の電車とは違う、近代的な雰囲気だ。

本日、初めて見つけたMOMOの行き先表示は「ピアガー電」。この時期、MOMOは連休日である毎週金曜日の夜、ビール3杯とおつまみのついた予約制の宴会電車「ピアガー電」になっている。4年目を迎えた今年も知名度も上がり、貸切りや予約で満席の日も多々ある。

「乗って楽しい電車」を目指す岡山電気軌道では、乗客を楽しませるために「風鈴電車」や「クリスマス電車」「コンサート電車」など、年間を通してさまざまなイベント電車を運行しているが、2002年にお披露目されたMOMOの場合、テーブルや向かい合わせの座席など、当初からイベントを行うことを前提に車内がデザインされたといえる。

「ピアガー電」は9月まで、10月からは「ワイン電車」に衣替え。

宴会電車は市内を巡る

今夜の「ピアガー電」は一団体の貸切り。出発時刻が近づいて、次第に集まる予約客を、普通電車には乗務していない車掌さんや、黒いエプロンをしたアテンダント、運転手さんが揃ってお出迎え。乗務員は管理職や技術課の職員さんたち。特別仕様の「ピアガー電」は、乗務員も特別仕様だ。

いつもと違う電車の雰囲気周囲の視線が集まる。間違えて乗り込もうとした一般の利用者が、乗務員に止められて不思議そうに車内をのぞく。集まる視線にさらされた乗客は、恥ずかしそうに、それでもどこか自慢げに記念撮影に余念がない。

18時30分、夕暮れを迎えつつある市中心部に向けて、銀色の車体が静かに動き出す。これから約2時間、「ピアガー電」は市内を巡る。閉じたドアの向こうに乗客の期待と笑顔が弾んで見える。

つごな。つごな。つごな。楽しんで。



色とりどりの電車が走る



待機中の「ピアガー電」。運転手は運輸課の係長さん。